

誰一人取り残さない



県立高校中途退学者は年間に200人から300人ほどいます。中途退学した後にどのように生活しているのか、県には把握している部署はありませんでした。

9月議会では、私は代表質問に登壇し、中学卒業から成人期にある子ども(若者)たちへの支援策を強化する必要があるという立場で、質問を行いました。



そんな社会を作るには

岩切たつや

子どもにも優しい社会を

県議会 便り

2021年10月

発行

県議 岩切たつや

住所 880-0942

宮崎市生目台東
1丁目6-8

電話0985-89-5158

fax 0985-86-8778



中学を卒業する子どもたちが県立高校受験する際、定数に空きがあっても、入学が認められない生徒がいます。「定数内不合格」と言われ、令和二年度は全日制で三六人、定時制で十二人いました。また、高校を中途退学する生徒も、私が思う以上の人数でした。

中学や高校の先生たちが、その後について自発的にフォローをしていますが、体制的な支援ではなく、その支援結果がまわっているものはありません。中学卒業し、高校に行き、次の進路に進む子どもたちがほとんどである中、わずかに数%の子どもたちが、社会から十分に目をかけられることなく、その保護者の頑張りだけで支えられていたりします。

ヤングケアラ

テレビで「僕の日常、誰も知らない」「十七人に一人いる」というCMが流れます。中学や高校の、その時期に体験すべきことが制約を受けることが課題だと言われている問題です。社

会全体で考えることが必要な問題となつていますが、ヤングケアラの数の把握など県内実態調査はまだ実施されていません。

広域通信制高校サポート校

国内には、百を超える広域通信制高校があり、そこに学ぶ宮崎県内の生徒のために、市内にサポート校というのがあります。知る人の少ない学びの形です。

通信制高校として、学校に支払う授業料は無料化されていますが、地元サポート校は有償で、月額3〜4万円とのこと。利用する生徒の保護者から、負担の大変さを訴える声をいただきました。高校を中途退学して利用してい

一議会に3本の補正予算！コロナ対策は感染対策と経済対策

議会は九月六日に開会し、百十五億円の補正予算案が提案され、次いで十五日、まん延防止等重点措置の延長を受けて五十億円の補正予算案が、さらに閉会日である十月十一日に、県議会議員補欠選挙にかかる費用として約一億一千万円の補正予算案が提案されました。

一つの議会に三本の補正予算が提案されるのは、長い議会の歴史でも稀なこと伺います。

新型コロナウイルスという疫病がまん延したことが、この稀な状況を作り出しました。歳出は、第一に感染しない・させないよう努力、そのために自らの家業を自粛していたり飲食店等への協力金。そして、それら飲食店等との取引がある事業者や、代行運搬業など関連が深い事業者に対する支援金が目的でした。第二に感染された

る生徒や、学ぶ内容を自分で選ぶことに魅力を感じて選択した生徒もいる一方、いじめ被害から身を守るために転学した生徒、集団生活が苦手な生徒も学んでいます。

社会の基盤をよりよいものに

児童相談所、子ども・若者総合相談センター「わかば」、精神保健福祉センターなど相談対応する場所があります。それからこぼれ落ちるような、支援の手がありそうでない、そんな子どもたちの問題に取り組み必要があるのではないかと。私は、誰も取り残さない社会を作りたいと、知事に質問しました。



知事は「子どもや若者が、その力の十分に伸ばし、活躍できるように支援することは、子ども・若者自身の幸せはもとより、これからの社会を築いていくための人材の育成・確保にもつながる重要な取り組み。課題の把握と、きめ細やかな支援に総合的に取り組んでいきたい。」と考えを示しました。

立憲民主党県議会議員

岩切たつやプロフィール

1979年県庁入庁し、児童相談所、福祉事務所等に勤務。その間、労組委員長、PTA会長など労働運動、地域活動に取り組む。2015年県議選に初挑戦、現在二期目。環境農林水産常任委員会委員長
立憲民主党宮崎政策調査会長 60歳
社会福祉士、宮崎県登録養育士



倫理観をなくした政治は社会を本当にだめにする。政権交代が必要だ。働く者の立場を守り、全ての子どもらに、幸福な未来があるように祈ると同時に、行動していきます。様々な課題を取り上げて、県民福祉の向上に寄与できるように頑張っていきます。皆さまの、県政に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

方の入院治療・療養に必要な予算です。軽傷者の宿泊療養施設の運営費が増額されました。また、重症化予防センターを設置するための費用で、この予算でホテルの駐車場に臨時の施設が設置されました。

宮崎県では、厳しい財政の中、工夫して対応しています。一方、真に住民の安全と安心を上げることが政府には求められてきましたが、六月以降国会は開かれず、必要な補正予算は一本も組まれていません。コロナ感染し自宅に亡くなった方が八月だけで全国に二五〇人もいた(警察庁まとめ)事実は、明らかに政府の失敗であり、私は許すことができません。しっかりと記憶にとどめて行動することが大事になっています。



支えることも、支えられることもあっていい そう信じられる社会づくりを

私の質問・答弁の一部をご紹介します。

☆質問☆（学び直しを支える）

進路未定で中学校を卒業した生徒への支援の実情は。県立高校の中途退学者への支援実態は。学び直しの意欲を持つ未成年にどんな支援が必要と考えるか。

☆答弁☆（教育長）

生徒の担任等が連絡を取ったりにして、必要に応じて相談機関を紹介し、家庭訪問もするが、継続的に支援することは難しい。現代は、その生徒の適性や生活にあった学びの場を選択できる時代である。学ぶ費用の問題で断念することもあると認識している。社会全体で支えることが重要と考える。

☆質問☆（支援はどのくらいあるべきか）

一五歳以降の、この世代の課題にトータルに対応できるところがない。知事の考えを聞きたい。

☆答弁☆（知事）

子どもや若者が抱える課題は、複雑化・多様化している。新たな課題も強く求められている。関係部局の連携、民間団体等とともに課題の確かな把握と、きめ細やかな支援に総合的に取り組んで参りたいと考えている。

☆質問☆（成人年齢引き下げ）

来年4月、成人年齢が一八歳に引き下げられる。特に消費契約の当事者になることで、トラブル増

加の懸念がある。どう対処するか。

☆答弁☆（教育長・総合政策部長）

成人年齢が一八歳になることで、親の同意なくローン契約の当事者になることが可能になる。消費者学習を進めている。消費者相談窓口の短縮ダイヤル「1888（いや）」を出前講座などで周知に努めている。

☆質問☆（若者の早期離職）

県が早期離職の原因調査をしたが、介護サービス事業者では第一位の離職理由が「職場の人間関係」であった。それはいわゆるハラスメントではないか。職場でハラスメントを受けて離職した若者の相談を受けた。せっかく若者就職の対策をしているのに、放置できない課題だ。

☆答弁☆（商工観光労働部長）

ハラスメントは早期離職の原因の一つである。労働相談窓口にも相談が寄せられる。約六割の事業所が対策に取り組んでいる。ハラスメントの防止に関する普及啓発促進に取り組んでいく。

☆私の思い☆ 高校世代からもう少し上の世代までは、大人なのか子どもなのかという世代。一人では解決できない課題を抱えることもありま

す。社会との接点を提供し、孤立を防ぎ、しっかりと支えて寄り添うことが、私たちの社会の基盤をよりよくしていくことにつながると考えます。

☆質問☆（発達支援センターおおよらの支援）

発達障害児の支援拠点である「おおよら」は老朽化等の課題があるが、支援策について伺う。

☆答弁☆（福祉保健部長）

宮崎市から支援要望を受けている。県内の子どもにとって重要な施設であり、安定的な運営に向け支援を行っていく。

☆質問☆（いじめ対応）

被害を受けた児童が、二年間も別室で自習して過ごす実態が報道された。学校は「人手が足りない」と釈明したという。あり得ない、非人道的対応ではないか。

☆答弁☆（教育長）

繰り返されてはならないことである。被害児童へ寄り添う姿勢を基本として、組織的対応が行われるよう指導を徹底していく。

☆質問☆（職員の定年延長）

定年延長の義務化の流れで、県職員も令和五年度から定年が延長されるが、準備状況はいかが。

☆答弁☆（総務部長）

最終的に令和一三年度から六五歳定年となる。役職定年制や定年前再任用短時間勤務制など、新しい制度も導入される。職員の知識と経験が活かされることで行政課題に的確に対応し得るよう、円滑な導入に向け、取り組んでいく。

☆私の思い☆ 人口減少への対応策として必要なことですので、民間企業も参考になるような、雇用のあり方を構築してほしいものです。

◆7月6～7日県南調査 日南市の木材製材業、串間市のブリ養殖業、都城市の農業法人、宮崎市では県産木材をたくさん利用した映画館を視察。
◆7月15～16日県北調査 日之影町のジビエ、北浦町の水産業、東郷町の木材チップ業、日向市のへべす栽培を視察。
◆8月25日臨時会 補正予算(案)86.2億円を審議。コロナ感染症拡大に対する緊急事態宣言、さらにまん延防止等重点措置による飲食店等の営業自粛に対する協力金等の第一弾。
◆9月6日～10月11日定例会 令和3年度の一般会計は15回に及ぶ補正を行い、予算規模は6,793億6,839万8千円となりました。今定例会では、令和2年度の決算を審議しました。

*紙面ですべてをお伝えすることが難しいことから、詳しくは県広報や宮崎県庁ホームページをご覧ください。

〈さまざまなスナップ〉



↑夏から秋、精一杯、訴えて回りました



常任委員会委員長として全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会を視察



↑街頭宣伝活動にいっしょうけんめい取り組んでいます



← 都城市の農業法人を視察

☆質問☆（路線バスを守るには）

宮崎交通で働く職員は厳しい労働条件のなか、歯を食いしばって、住民の交通手段を守ろうとしている。県の支援が必要だ。

☆答弁☆（総合政策部長）

国、市町村と事業者で検討を開始した。アンケートなど調査を行い地域の実情に応じた方針を本年度中にとりまとめた。

☆質問☆（路線バスを守るには）

バスを運転出来る免許所有者は約七千人、うち六五歳以上が三分の二。免許取得者を増やす対策は。

☆答弁☆（総合政策部長）

取得の際の費用を一部補助するなど、県バス協会を通して行っ

☆質問☆（安全な廃棄物処理）

一般廃棄物である家庭ゴミには、マスクやティッシュなどもある。収集に従事する職員への感染症防止対策が重要だ。

☆答弁☆（環境森林部長）

国からガイドラインが出され、従事者にはマスク着用など防護具を使用することや、ゴミを素手で触らない、車内を消毒する、作業後の手洗いなどの徹底が求められている。市町村から事業者へ周知し、また、コロナ感染者のうち自宅療養している方には、保健所が、ゴミの出方の周知を図っている。

